

# 遠距離介護が、見えてくる

## パオッコ活動現場より③

NPO法人パオッコ 離れて暮らす親のケアを考える会 太田差恵子

離れて暮らす親の体調が低下してくると、子としては何らかの支援をしなければ、と思うようになります。自分がそばに居られないから、定期的にホームヘルパーにはいつてもらおうと。しかし！

親は頑なに拒否するケースがめずらしくありません。それはそうかも……。ヘルパー利用を勧められるというよりは、「できていないことが増えてるよ」と指摘されているとも解釈できるからです。親にとつて、子は、いくつになろうと「子」。その子から、そういうことを言われると癪に触るのでしょうか。

まして、「子」の配偶者から言われると、「あんたに、言われた

くない」とさらに頑なに。

高齢の親のなかには「家を守ることは自分の使命」と考えている人も。ホームヘルパーのことを家政婦や、その昔の女中と区別できていない人もいます。ホームヘルパーを利用することは、「自分の仕事を奪われる」とあるいは「怠け者になる」ととらえてしまうこともあるようです。

先日、パオッコサロンでもこの話題がでました。「どうしても、親がサービス利用を受け入れてくれない」との悩みを抱えた初参加者がいたから……。居合わせた女性Aさんがいいました。「ヘルパーさんに来てもらったら、楽になるよ」って

言い方は逆効果。あの世代は、働き者だから。

確かに、「楽になるよ」と勧め、失敗しているケースを度々聞きます。規範的に楽をするのを「悪」と考えるのか、怠けているように思われることが「嫌」なのか……。もちろんすべのお年寄りがそうだというわけではありませんが。

「うちの場合はね……」とAさんは自身の体験を話し始めました。両親が故郷で二人暮らし。母親が父親の介護をおこなっていました。とはいっても、母親も高齢です。Aさんは、母親にホームヘルプサービスの利用を促しました。が、母親は断固拒否。「最初は『利用したら、楽になるよ』

Mヘルプサービスに移行すると、いう人もいます。

皆さん、あの手この手。しかし、なかには、色々試しても、どうしても親が頑固というケースも。

こんな会員さんいました。Cさんです。認知症の父親は、誰も家に入れない。実家はごみ屋敷状態。ケアマネジャーも、ホームヘルパーも家に入ることができません。ご近所からは「火事が心配。子どもなんだから、なんとかしなさい」と、Cさんのところに責める電話がかかってきます。Cさんは、何とかしなければと帰省するのですが、ヘルパーの話などをしようものなら、父親は怒鳴ります。父親は、お風呂にも入っていません。Cさんは、そんな父親のことが負担で、いろいろなところに相談に出かけたといいます。

「でも、どこに行っても『大変ですわね』と同情してくれるだけ。解決策を提示してくれる人はいません」。彼女がパオッコに初めて来たとき、憔悴しきって泣いてました。涙をぼろぼろ流します。

と勧めていたんですが、あるとき、この言い方がだめなんだと気づきました。母親は「自分のため」はいけないことだと思っているんですね。

そこで、Aさんは知恵を絞りました。父親には減塩食も必要でした。そこで「お父さんのために減塩食の調理法をおしえてくれる先生に来てもらおう」と言いました。すると、母親は「お父さんのためなら」と了解。そして、実際にはホームヘルパーに減塩食の先生という事で、来てもらうことに成功。

ウソも方便とは、まさにこのようなことを言うのではないのでしょうか。

そういえば、以前、こんな人もいました。Bさんといいます。認知症の母親がひとり暮らし。Bさんは定期的に帰省してました。母親はなんとか生活していたものの、トイレの汚れがとれなくなり、不衛生だからと、ヘルパーの導入を試みようとしたのです。けれども、母親は「自分でできる。ヘルパーなんて来

小学生の子どもたちに「お母さん、死なないで」と言われると。たまたまそのときのパオッコ

サロンには、宅老所を運営する女性が参加していました。彼女いわく、「家に入れないって、そのケアマネもヘルパーもプロじゃない。私が行きましょうか」。彼女は認知症のお年寄りとして日々接しています。だからといって、そんな困難事例を、ほんとうに解決できるのだろうかと思っただけを覚えていてます。

Cさんも半信半疑だったようです。が、とにかく依頼。薬をもすがら思いついたでしょう。遠方でしたが、女性は車で実家まで行ってくれました。そして、無理やりではなく、すんなり父親を車に乗せて宅老所まで連れてくることに成功。父親は数日後には、「今日は、お風呂は何時ですか？」と入浴を楽しみにするまでになったとか。その間に、Cさんは実家のごみを処分。「プロってスゴイ！」と思った一件でした。

NPO法人パオッコ

### ～離れて暮らす親のケアを考える会～

親世代はできることなら生涯、住み慣れた家で住まい続けたいと望み、子世代も仕事や子どもの教育などを考えると、故郷に戻ることは容易ではありません。そんな状況のなか、親の心身に衰えが生じると子世代はどうしたものかと悩みます。パオッコは「ひとりの経験はきっとみんなの役に立つ」という理念のもと、情報や体験を共有。ぜひ、ホームページに遊びにきてください！

〒113-0033 東京都文京区本郷3-37-8  
本郷春木町ビル9F インキュベーションハウス内  
ホームページ <http://paokko.org>